

北日本食の成長戦略による青森県水産物の高機能ブランド化と輸出促進に資する 実証研究開発

〔分野〕	水産業
〔分類〕	実証研究型
〔研究代表機関〕	（国）弘前大学・食料科学研究所 （高機能ブランド化・輸出促進実証研究開発コンソーシアム）
〔参画研究機関〕	（地独）青森県産業技術センター内水面研究所、（株）オカムラ食品工業
（普及担当機関）	深浦町
〔研究・実証地区〕	青森県西津軽郡深浦町

I 目指す地域戦略と研究の背景・課題

1. 地域戦略の概要

青森県産水産物は生産量と魚価の向上が課題と考えられる。具体的な生産現場の要望としては、安定な生産量を持つが魚価を向上させたい、安定な魚価を持つが生産量を向上させたい、ならびに、生産量および魚価をともに向上させたい、の3つの課題がある。こうした課題解決に向けて、青森県における魚介藻類の生産量増加および所得向上を達成するための技術体系の確立を目指す。

2. 研究の背景・課題

青森県の海面漁業・養殖業は、近年生産量が減少傾向にあり、養殖業の生産量は一定であるものの海面漁業における生産量減少が顕著である。また、平成25年度では生産量が全国第6位に対し、生産額が全国第10位となっている。これは、全国屈指の生産量を誇るにも関わらず、水産物が安く取引されていることによる。したがって、青森県産水産物は生産量と魚価の向上が解決すべき重要課題である。

本研究計画では、海面漁業と比較して安定な生産量が見込める養殖業の新たな品目として、サーモンの陸上養殖技術の実証を行う。サーモンは、世界的に需要が伸びており魚価は比較的安定な品目であり、陸上養殖することで生産量の向上だけでなく、安定供給にも繋がる。

サーモンの陸上養殖技術は、ふ化、中間育成、海水養殖の3つの工程に分けられるが、本研究計画では、内水面研究所が保有する大型のニジマス的一种である海水耐性ドナルドソンを活用したサーモンのふ化、中間育成の技術を研究・実証地区へ移転し現地実証する。ここで実施する技術移転は、平成25年度補正予算で実証したサーモンの中間育成魚が研究・実証地区の環境下において育成可能とした成果を基に現地実証するものである。

また、本研究計画では、青森県産サーモンの輸出促進に向けて、同サーモンのおいしさ、機能性関連の既知成分情報を付与した試験販売を通じて国内外の首都圏においてブランド化に向けたマーケティングを実証する。

II 研究の目標

対象品目に対して、

- ・サーモン中間育成場が400g以上/尾の中間育成魚を500kg以上育成できることを実証
- ・国外の首都圏において青森県産サーモンのおいしさ、機能性関連の既知成分情報を付与したブランド化に向けたマーケティングを実証

III 研究計画の概要

1. 世界市場に通用する安全・安心な生食用サーモンの大規模陸上養殖技術の開発

（1）サーモンのふ化技術の導入と実証

ハッチングジャーを用いたサーモンの受精卵ーふ化管理の技術体系の確立を行う。

（2）周年供給可能な大規模中間育成場の開発と実証

大規模中間育成場におけるサーモンの中間育成魚の生産試験を行う。

2. 産学官金連携による青森県産水産物の移出・輸出促進体系の構築

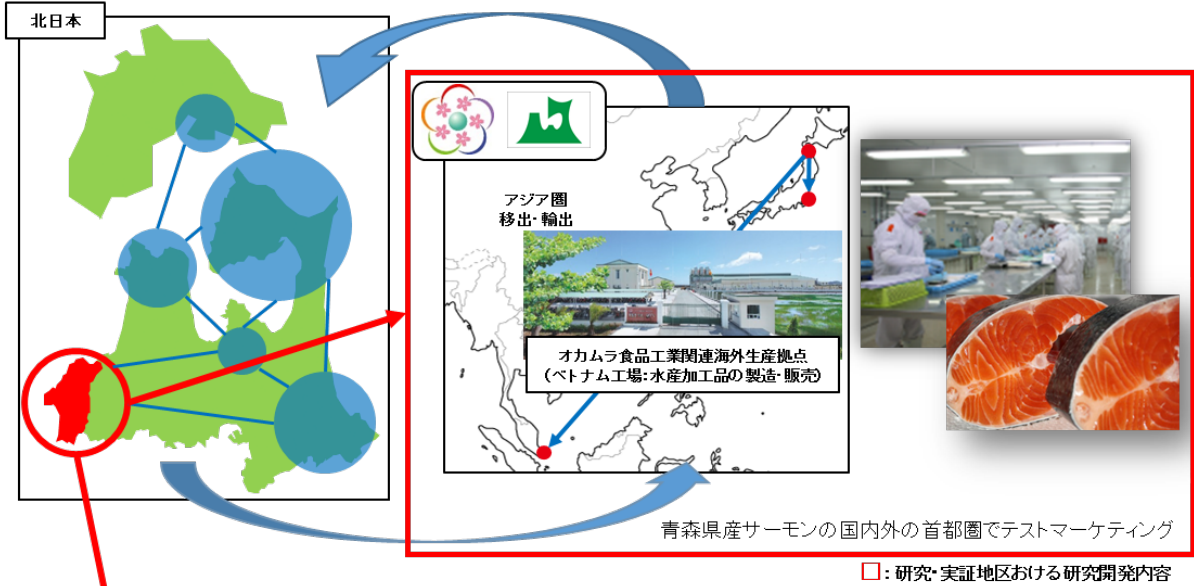
産学官金連携プラットフォームによるマーケティングの実証を行う。

北日本食の成長戦略による青森県水産物の高機能ブランド化と輸出促進に資する実証研究開発

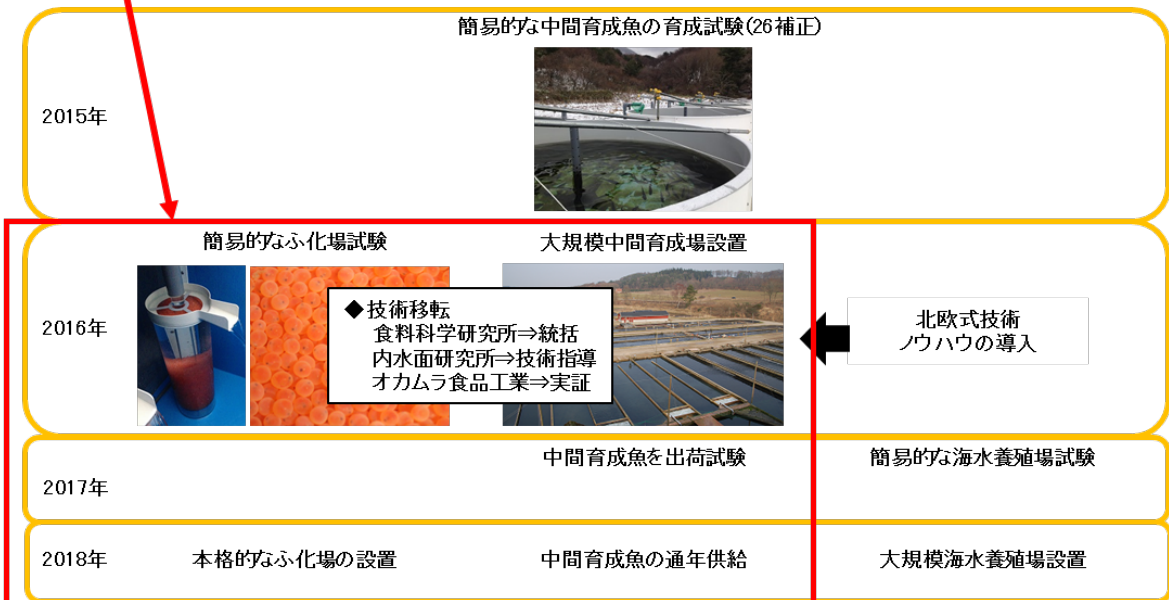
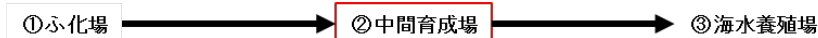
青森県における養殖業の生産増加とこれに伴う所得増加を促し、地域戦略の達成に繋げる研究を行う。

1. 世界市場に通用する安全・安心な生食用サーモンの大規模陸上養殖技術
 - (1) サーモンのふ化技術の導入と実証
ハッチングジャーを用いたサーモンの受精卵ーふ化管理の技術体系の確立
 - (2) 周年供給可能な大規模中間育成場の開発と実証
大規模中間育成場におけるサーモンの中間育成魚の生産試験
2. 産学官金連携による青森県産水産物の移出・輸出促進体系
 - (1) 産学官金連携プラットフォームによるマーケティングの実証

◆産学官金連携による青森県産水産物の移出・輸出促進体系 ⇒ 北日本食の成長戦略の推進



◆世界市場に通用する安全・安心な生食用サーモンの大規模陸上養殖技術



◆技術的優位性

100トン規模の中間育成魚の一貫生産が可能→中間育成魚の生産コスト軽減(⇒生産者の利益向上)